

第 22 期第 2 四半期業績のご報告 (平成 29 年 7 月 1 日～平成 29 年 12 月 31 日)

平成 30 年 3 月 吉日
日本システムバンク株式会社
代表取締役社長 野坂 信嘉

当中間期におけるわが国経済は、好調な企業収益を背景に雇用所得や設備投資が改善し、穏やかな回復基調にあるものの、欧米の政治・経済リスクや東アジアにおける地政学的なリスクの高まりなどにより、依然として先行きは不透明な状況が続いております。

駐車場業界におきましては、慢性的な駐車場不足により都市部を中心として高い駐車場需要はあるものの、訪日外国人の増加による宿泊需要の高まりを受け、既存駐車場を宿泊施設に転用や土地の賃借料の高騰など、厳しい事業環境となりました。

このような状況の中、当社は「将来に亘っての成長」及び「安定した経営基盤づくり」に努めて参りました。

営業面においては、駐車場の付加価値向上を図るべく、スマートフォンでの駐車場の検索から利用料金の決済可能なサービス「SmooPA」の普及に注力致しました。また、財務面においては、新規駐車場の開発拡大及び競合他社との差別化を目指したシステム投資に備え、新規に資金調達を実施致しました。

事業区分別の業績は以下のとおりです。

CPシステム運営事業では、新規駐車場においては、積極的な営業活動を行い、開設を進めました。既存駐車場においては、駐車場の需給バランスを考慮した料金設定の最適化を継続的に実施して収益力の向上に努めて参りました。その結果、売上高 1,484,262 千円(前年同期比 99%)となりました。

CPシステム販売事業では、管理受託駐車場数の増加によりメンテナンス売上は堅調に伸長しましたが、得意先の新規駐車場の開発計画が減少傾向となったことにより駐車場システムの販売が減少致した結果、売上高 1,509,291 千円(前年同期比 98%)となりました。

プロパティマネジメント事業は、「満室経営」を目指し、物件の稼働率の向上に努めた結果、売上高 124,387 千円(前年同期比 103%)となりました。

以上の結果、当中間期における売上高は 3,118,992 千円(前年同期比 99%)となりました。

事業区別	金額	前年同期比
CPシステム運営事業	1,484,262千円	99%
CPシステム販売管理事業	1,509,291千円	98%
プロパティマネジメント事業	124,387千円	103%
その他	1,050千円	564%
計	3,118,992千円	99%
